

各 位

上場会社名	株式会社SJI
代表者	代表取締役社長 李 堅
(コード番号)	2315)
問合せ先責任者	執行役員 経営企画本部長 大槻 二郎
(TEL)	03-5769-8200)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位: 百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	12,000	644	626	211
今回発表予想(B)	10,124	150	△32	△461
増減額(B-A)	△1,876	△494	△658	△672
増減率(%)	△15.6	△76.7	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	13,006	612	660	347

修正の理由

昨年のいわゆるリーマンショックを契機とした世界同時不況は、今期に入ってさらに深刻化の様相を見せ、かつて経験したことのない程の短期間での急速な国内市場の冷え込みは、最近になって一部に下げ止まり感が出てきてはいるものの、依然として受注環境は厳しい状況が続いております。

一方、当社が事業展開する中国経済は、主要輸出先である米欧経済の後退に起因する輸出の大幅な減少に持ち直しの動きが見られ、また中国政府が推進する大規模なインフラ整備を中核とした景気刺激策の効果もあり、公共投資と個人消費の伸びが生産の増加につながり、世界に先駆けて経済回復期待が高まっております。

このような状況下、当社グループは継続して中国での事業展開に注力すると共に、固定費の削減と効率的運営体制の再構築を図るべく本年4月に国内事業子会社2社を合併し、更に7月にはその2社を当社に合併して、新生SJIとして効率的運営体制の構築を行いました。また並行して、日本及び中国の事業会社にて、鋭意固定費の削減を図って参りましたが、業績予想の修正が必要なことが明らかになりましたので、連結業績予想の修正をおこなうものであります。

売上高については、当社は第2四半期より純粋持株会社から事業持株会社へ移行いたしました。日本における第2四半期の事業売上は、主要取引先の金融・製造業IT投資が予想以上に抑制されたこと、及び中国において日本向けのオフショア開発が不調であったこと等により、12,000百万円の計画に対し10,124百万円となりました。

営業利益については、中国における電力と通信を中心とした政府・インフラ向けのシステム開発が堅調でありましたが、石油化学エンジニアリングサービス事業において、顧客の都合によりプロジェクトの進行と検収に一部遅延が発生すると共に、利益率の低い輸入製品の販売比率が上昇いたしました。また、中国においては日本企業を主要顧客とするオフショア開発人員の中国国内プロジェクトへの一時的な切り替えや、コスト削減策を含むサービス体制の再構築を実施し、日本において売上減少に対応した社内稼働率向上策によって外注費の削減を図る等、より一層の効率的な経営を目指しましたが、494百万円の減少となりました。

経常利益については、営業利益の減少に加え、営業外収益として中国子会社で流通税還付金69百万円等が発生したものの、営業外費用として円高による為替差損219百万円等が発生した結果、658百万円の減少となりました。

特別損失には、投資有価証券評価損36百万円等を計上いたしました。

四半期純利益につきましては、日本において、受注環境の悪化により繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、繰延税金資産の一部を取崩すこととし、法人税等調整額に72百万円を計上したこともあり、211百万円の計画に対し、△461百万円となりました。

なお、今後の世界的な不況の動向やIT投資の減少の長期化が当社業績に与える具体的な影響及び、11月4日に発表したデジタル・チャイナ・グループとの業務・資本提携が当社の業績に及ぼす影響については、分かり次第、適時、適切に開示してまいります。

また、平成21年5月15日付「平成21年3月期決算短信」で発表した平成22年3月期通期の連結業績予想及び個別業績予想については現在精査中であり、今後、変更の必要が発生した場合は、適時、適切に開示してまいります。

※上記の差異の内容につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。

以上